

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	こどもプラス豊見城教室			
○保護者評価実施期間	令和 7年 2月 1日		～	令和 7年 2月 28日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	48	(回答者数)	48
○従業者評価実施期間	令和 7年 2月 1日		～	令和 7年 2月 28日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	14	(回答者数)	14
○事業者向け自己評価表作成日	令和 7年 3月 10日			

○ 分析結果

	事業所の強み（※）だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的にやっている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	・お庭を含めた敷地面積の広さ。	・お庭が道路に面しているので、ネット付きのフェンスを立ててボールが外に出ないように工夫しております。 ・大きな部屋、小さな部屋、お庭と数か所活動場所があるので、職員の配置に偏りが出ないような配置に配慮しております。	・フェンスのネットが風化や児劣化で穴が開いたりするので、定期的に修繕し安全面の配慮に努めます。 ・死角が出来ないように、職員間での情報確認や場所を移動する際の声をかけ・引継ぎなどを行い、安全面の確保に努めます。
2	・柳沢運動プログラムを用いた運動療育の実施。	・職員はこどもプラスホールディングスからの運動研修動画を視聴したり、毎月発行されている広報を熟読し、運動プログラムの研修をしています。考案する職員が最新の情報を収集して運動遊びを実施し、利用児童を飽きさせない工夫をしております。	・運動療育支援員の資格取得の研修に参加し、各職員のスキルアップを行っております。
3	・多職種の配置による、多角的な支援の実施。	・日々朝礼や終礼で、利用児童の行動をフィードバックし、多角的な視点での支援ができるようにしております。	・職員個々の自己研鑽を促すとともに、希望する研修に参加出来るよう取り組みます。 ・法人内で行っているセラピスト会議や、保育所等訪問リーダー会など、同法人内事業所からの情報も共有し、さらなる多職種からの視点で支援できるように取り組んでおります。

	事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	・運動遊び実施時や、フリーな活動中の安全面の確保が出来ていない時がある。	・児童の個別対応中、周りにいる他の児童も情緒が落ち着かなくなったり、対応する優先順位を変更できない時がある。他職員への声かけや、個別対応中の児童に少し待ってもらいなど、視野を広げて対応する必要性を感じている。	・児童対応中の優先順位の付け方について、朝礼や終礼で議題に挙げる頻度を増やしてい行くように努めます。
2	・職員間での報告連絡相談や、保護者からの情報の共有が出来ていない時がある。	・児童対応中や迎えに来た保護者対応、または訪問時や会議等で聞いた情報を、即時LINEやメモに残さず後回しにしてしまい、職員間での報告が漏れてしまう時がある。	・連絡ミスや共有漏れが起きた過去の事例等を引き合いに出して、未然に防げるような対応方法を職員間で協議したうえで、一日の業務を始めるように致します。
3	・事業所内の整理整頓ができていない。	・次回すぐ使うであろう物や翌日使用する物を置きっぱなしにしてしまう傾向がある。 ・収納箇所が少ないので工夫して整理整頓しなければならない。	・準備しておく必要がある物とそうでない物をはっきりさせながら、必ず元の場所に片づけるように周知徹底する。 ・必要な棚や収納は購入して、運動器具はもちろんその他運営に必要な物を片付けられるように努めます。